

静岡県東部地域の活性化を考える

2009年度のおゆみ

飛躍

C O N T E N T S

■ ごあいさつ	3
■ 2009年度のあゆみ	4
<hr/>	
■ 特集Ⅰ 知事鼎談	
どうする、これからの東部ビジョン	6
<hr/>	
■ 特集Ⅱ 観光振興 1	
伊豆で芽生える新たな観光策	8
<hr/>	
■ 特集Ⅱ 観光振興 2	
富士山を中心とした観光振興	10
<hr/>	
■ 特集Ⅲ ファルマバレープロジェクト	
専門性の高い人材育成	12
<hr/>	
■ 特集Ⅳ 合併	
平成の大合併終わる	14
<hr/>	
■ サンフロントから情報発信	
ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
<hr/>	
■ 2010年度活動方針	18
<hr/>	
■ サンフロント21懇話会会員名簿	20
<hr/>	
■ 運営委員長挨拶	27

ごあいさつ



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野光喜



静岡新聞社・静岡放送
社長

松井 純

2009年度は将来の道州制導入を視野に入れた広域行政や、ファルマバレープロジェクトの推進支援、県東部におけるコンベンション機能の促進支援、富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進、Mt. FUJIエコサイクリングの支援の5つをテーマとしました。

6月には県中部の牧之原、鳥田両市境に富士山静岡空港が開港しました。この空港を県東部のさらなる活性化にどう結びつけるかという観点からも幅広く議論し、提言活動に取り組むことができました。

恒例の地区分科会は東部、伊豆、富士の3地区でコンベンション、ウエルネス（健康を求める行動）などをテーマとし、これまでも増して地域の課題を深掘りすることで、会員の皆様方からさまざまな意見や提案をいただきました。

各分科会では富士山静岡空港の存在感を高めるためには、富士山やその周辺、さらには伊豆地区の観光を絡めた視点が県東部の発展に欠かせないことをあらためて認識する良い機会となりました。

今後もさらなる発展に向けて、会員の皆様方と、より一層議論を深めて参りたいと思いますので、引き続きご協力をお願いします。

自民党から民主党を中心とした鳩山内閣への政権交代、川勝平太知事の誕生。2009年度は国内、県内ともに時代の変化を予感させる1年でした。

一昨年のリーマンショックに伴う米国発の世界同時不況は、外需依存の強い県内経済に大きな影響を及ぼし、大学生、高校生など新卒者を中心に雇用環境は厳しさを増しています。

最も懸念すべきは景気のけん引役とされる個人消費の低迷です。このまま推移すれば地域の活力が失われてしまいます。先行き不安を一日も早く払しょくしなければなりません。今夏予定される参院選にどんな影響をもたらすか、大いに注目されるところです。

こうした状況下、6月開港の富士山静岡空港に着目し、その利活用と差別化戦略を共通総合テーマとし、富士、箱根、伊豆の広域観光の促進や広域行政、ファルマバレープロジェクトの推進支援など5つの年間テーマを掲げ、大いに議論し、提言しました。

各テーマは県東部の将来を左右する重要課題です。今後も地域性を踏まえた課題を掘り起こし、議論を深めたいと思います。会員皆様方のご協力をお願いします。

2009 年度のあゆみ

元外務省主任分析官
作家

佐藤 優

「国益とインテリジェンス」



情報伝達研究所代表
渡辺 厚

「これがコンベンション戦略だ!!」



鶴田ホテル社長
鶴田 浩一郎

「温泉地再生とウエルネス産業」



女優
藤田 弓子

「いくつになっても旬」



ラグビー元日本代表
大八木 淳史

「スポーツによる青少年育成と
まちづくり」



元内閣府特命担当相
(少子化・男女共同参画)

猪口 邦子

「日本の政治が良くなるために
必要なこと」



◆2009年5月

活動記録「飛躍」発行

2008年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、28頁)を発行した。内容は、総会、分科会など活動の足跡をはじめ、富士山静岡空港開港をチャンスに捉える観光振興、ファルマバレープロジェクトで加速するベッドサイドクラスター、賑わいの拠点東部コンベンションセンター計画、そして広域行政の推進など。2009年度の活動方針も紹介した。

◆2009年5月20日 110人出席

2009年度総会(沼津東急ホテル)

15回目となる総会には110人が出席し、2009年度予算、活動方針を原案通り承認した。記念講演では元外務省主任分析官で作家の佐藤優氏が「国益とインテリジェンス」をテーマに、米国とロシアの関係の変化を例に挙げ、諸外国の反発を受けて利益が損なわれるときに初めて国際協調する“新帝国主義”について説明した。

◆2009年7月27日 100人出席

第15回東部地区分科会(ブケ東海)

県と沼津市が沼津駅北地区に計画しているコンベンション施設を、どのように東部地区活性化につなげるかを中心に、基調講演やパネル討論を繰り広げた。県建設部の木村忠幸理事がコンベンションセンターの建設計画について説明した後、情報伝達研究所の渡辺厚代表が「これがコンベンション戦略だ!!」と題した基調講演で「コンベンションセンター整備で、地域には重大な責任と大いなる可能性が生まれる」と指摘した。

パネル討論では、県東部地域コンベンションビューロー会長の後藤全弘沼津商工会議所会頭、日本実務出版の森口巳都瑠社長、日大短期大学の宮川幸司教授、近畿日本ツーリスト沼津支店の福田昌明支店長がパネリストとなって、コンベンションセンターの東部地域に及ぼす影響、現状、これからの課題について熱心な議論を展開した。

◆2009年10月29日 70人出席

第15回伊豆地区分科会 (ホテルサンバレー富士見)

「伊豆の観光はウエルネス」をテーマに大型温泉地再生のカリスマとして知られる別府温泉の鶴田浩一郎氏の基調講演に続いて地元関係者らがパネル討論を展開し、これからの伊豆の観光の方向として、ウエルネスをキーワードにした地域資源の活用、人材育成策、地域力の活用などを探った。

鶴田氏は「温泉地再生とウエルネス産業」と題した基調講演で、日本一の源泉数を誇る別府の温泉力を生かした地域再生の取り組みである地域文化体験型事業「ハットウ・オンパク」について紹介した。

パネル討論ではコーディネーターの中山勝企業経営研究所常務理事、パネリストの鈴木基文船原館社長(伊豆市)ら4氏が「もてなしの心を住民が持つこと」「地域を挙げ、人の治癒力を重視した健康増進の戦略的な取り組みを」「温泉などウエルネス資源を地元住民がもっとアピールすべき」など、それぞれの視点から活性化策を提案した。

◆2009年12月2日 80人出席

運営委員会全体会 (みしまプラザホテル)

運営委員会では、事務局から「広域行政の推進支援」「ファルマバレープロジェクトの推進支援」「東部地区におけるコンベンション機能の促進」「富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進」の4テーマが示された。記念講演は伊豆の国市在住の女優、藤田弓子さんが「いくつになっても匂」と題し、笑顔やいい姿勢の効果や笑顔の作り方などを指導し、和やかな笑いを誘った。



◆2010年2月18日 120人出席

第15回富士地区分科会 (ホテルグランド富士)

「富士山を生かしたスポーツコンベンションの可能性」をテーマに、ラグビー元日本代表の大八木淳史氏の基調講演とパネル討論を行い、スポーツを通じた人づくりや富士山の魅力、地域活性化などを議論した。

大八木氏は「スポーツによる青少年育成とまちづくり」と題して講演。自身もモデルとなった熱血学園ドラマ「スクール☆ウォーズ」に触れ、京都市立伏見工業高での山口良治監督(当時)との出会いを通じて学んだ過程の重要性、人を生かしたまちづくりの必要性などを説いた。

パネル討論は懇話会シンクタンクTESS研究員の影山武司静岡総合研究機構研究部長がコーディネーターを務め、富士山の周辺で富士山の恩恵を生かしたスポーツイベントやまちづくりを通じて活躍する4氏が、それぞれの活動を紹介しながら、スポーツコンベンションの意義や課題などを述べた。

◆2010年3月24日 40人出席

幹事・運営委員と東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議 (サンフロント9階ミーティングホール)

運営委員長の井口賢明あさひ総合法律事務所長が、広域行政の推進支援など2010年度の活動方針を説明し、了承された。井口委員長は「懇話会として政令市実現に向け独自のシミュレーションを示したい」と説明した。

議事終了後には、元内閣府特命担当相(少子化・男女共同参画)で4月から三島市の日大国際関係学部教授に就任した猪口邦子氏が「日本の政治が良くなるために必要なこと」と題して講演した。



昨年7月、静岡県知事選挙が行われ、16年にわたった石川嘉延知事から川勝平太知事にバトンタッチされました。今後の県政運営がどのように変わるのか、懇話会は新聞企画「風は東から」で川勝知事をお迎えし、岡野光喜代表幹事と大坪檀アドバイザーによる鼎談を行いました。

■ 広域連携

東部に力のある中核都市を。 沼津市のリーダーシップに期待

大坪 サンフロント21懇話会は、平成7年の発足以来、東部の活性化についてさまざまな提言を行ってきました。多くの成果を生み出しましたが、一方で依然進まないのが市町の合併です。核になる自治体が東部にはなかなかできませんね。

岡野 懇話会は当初からこの地域にEUのような都市連合をつくり、それぞれが独自性をもって発展し、一体化する、という考えを持っています。沼津、三島市を

はじめとした東部2市2町の首長が県東部全体で合併機運を盛り上げようと話し合ったと聞いていますので、懇話会も支援するつもりです。

川勝 東部の広域行政を考えたとき、すでに人々のイメージでは沼津、三島市は一体です。両市が一つになれば1足す1が2でなく3以上の力になると思います。そうした市町がまとまっていだきたいと思いますし、沼津市のリーダーシップに期待しています。

■ ファルマバレープロジェクト

東部に健康を核とした概念づくりを

川勝 かつて自動車産業を軸にして産業のすそ野が広がったように、静岡がんセンターを中心に、医療が、そして異業種が参入し、健康医療の新しいシステムができつつある。しかもそれは「もの」ではなく、人々を幸せにするための、不老長寿に近づくための健康産業です。不老長寿は東洋の理想ですし、富士山には「不死の山」という意味もある。その現代の形がファルマバレープロジェクトだと思います。

懇話会には今まで培った人的ネットワークを駆使し



大坪 檀 静岡産業大学学長
サンフロント21懇話会アドバイザー



川勝平太 静岡県知事

略歴

1972年3月 早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業
1975年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
1985年10月 オックスフォード大学博士号取得
1990年4月 早稲田大学政治経済学部教授
1998年4月 国際日本文化研究センター教授
2007年4月 学校法人静岡文化芸術大学学長
2009年7月 静岡県知事(1期目)

て、東部に健康を核とした地域の概念づくりをお願いしたいですね。

大坪 プロジェクトが進むといろいろな人が訪れ、会議を開く。また、商談や交流をするためのコンベンション施設が必要ですね。

川勝 プロジェクトの核である静岡がんセンターには三島駅から車でおよそ15分で行けるようになりました。沼津を含むあの一帯でコンベンションが開ける会場と一流ホテルが必要です。それをつくるには駅に近い方がいい。沼津にはありがたいことに土地がありますから、沼津らしい外観を持った建物をつくりたいですね。

岡野 そういう意味でも自然と共生できるような、また沼津の千本松原や港や富士山が見える、オンリーワンのコンベンションセンターをつくるべきでしょう。

■ 伊豆観光振興

住んでよし、訪れてよし。
「咲きにほふ半島」目指して

大坪 懇話会の発足以来、議論しているのが、伊豆の活性化です。

川勝 首都圏から大勢の観光客がやってきますし、伊豆を知らない人はいないでしょう。すでに「日本の伊豆」になっていますが、私はこれを「世界の伊豆」にし

たい。伊豆は世界で最も美しい半島です。それを別の言葉で表したのが「ジオパーク」です。なじみの薄い言葉ですが、静岡大学の小山真人教授にご協力いただき、徐々に活動が広がっています。

大坪 温泉とともに伊豆で欠かせないのが花。1年中花があり、花を見て回るのは何ものにも勝る楽しみです。

川勝 伊豆は百花繚(りょう)乱の半島です。年明け早々に熱海の梅をいただき、とても感動しました。ここはそういう魅力的な場所ですが、むしろ住んでいる方に気づいてもらうためにも、花の半島にしたい。まずは伊豆にあるすべての花を網羅したリストを作りたいと思っています。

岡野 意外に知られていないのが、松崎の大鳥桜。食用の桜葉ですが、全国シェアの7割を占めています。また、修禅寺のアヤメも美しい。観光客は回遊しますか



岡野光喜 スルガ銀行社長
サンフロント21懇話会代表幹事

ら、市ごと、町ごとではなく「花・フラワー」と入力すると花情報が全部見られるような、ワンストップでいろいろな情報が手に入るサイトが必要でしょう。

川勝 回遊してもらうには道路整備も重要です。例えば、西伊豆スカイラインと伊豆スカイラインをU字形で結んだらどうでしょうか。国立公園内は開発が難しいとのことですが、二酸化炭素を出す車は通行できなくするなどの策はあると思います。それぞれの場所に花があり、旬の食文化があり、その素晴らしさに触れた人々は住んでみたいと考えるでしょう。しかも全国トップレベルの病院があり、それを支える健康産業がある。そこで働く人にとっても生活しやすい地域になると思います。



落ち込みが続く伊豆の観光産業に、今までにない切り口が次々と登場した1年でした。地域の資源を見直し、新たなテーマで再編集することが今、最も求められています。

各地で観光振興の動きが活発化

全国“総観光地化”が進む中、伊豆の魅力をどのように発信していくかが問われています。温泉と食、自然などの地域資源を見直し、従来の観光業だけでない分野との連携を通じた新たな伊豆の楽しみ方が生まれつつあります。

○ メディカルツーリズム

伊豆の国市を舞台に、県内初となる中国富裕層向けの人間ドッグツアーがまもなく商品化されます。全行程5～7日程度で、人間ドッグを市内の医療機関で受け、その前後は日本旅館でゆったりくつろぎ、富士山観光やゴルフなどを楽しめます。モニターツアーでは参加者から高い評価を受けました。

○ 観光圏

地域間の連携を促進し、滞在型観光を推進する「観光圏」整備事業。東部では、伊豆観光圏（伊東市、東伊豆町、河津町、下田市、南伊豆町）が申請し、4月に国土交通大臣の認定を受けました。認定されたことで民間のソフト事業に対する補助制度や各種法律の特例などにより、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりが可能になりました。

○ ジオパーク

ジオパークとは、地球（ジオ）の成り立ちが分かるような地形、地層や鉱物、温泉などさまざまな地質遺産を見どころとする自然公園。川勝平太知事が伊豆の観光振興策として、世界ジオパークの認定を目指すよう地域に提案したことから、一躍脚光を浴びました。時に災害をもたらす火山活動によって生み出された美しい自然景観や温泉などを、上手に活用した伊豆ならではのジオパークのあり方が模索されています。



■メディカルツアーの様子



■火山活動の跡が今も残る城ヶ崎海岸（伊東市）



■プレストアアの様子

○ かけつけ湯

観光に健康の視点を入れ、健康増進と癒やしのサービスを提供する伊豆の温泉宿のネットワーク「かけつけ湯」も6年目となり、伊豆全域で53施設となりました。健康志向や高齢化が進む中、各方面から新しい観光の形として注目されつつあります。昨年三嶋観光バスと協働で行ったプレストアアは、伊豆八十八カ所巡りと、

かけつけ湯での温泉プログラムや地元の食材をふんだんに使ったカロリー抑えめのメニューなどを盛り込み、好評でした。

■ 観光テーマに分科会を開催

懇話会では、伊豆観光におけるウェルネス分野での取り組みや、JR沼津駅北に建設が予定されているコンベンション施設を活用した観光振興などについて、2度の分科会で話し合いました。

2009.7.27 ① 東部地区分科会

テーマ「東部地区のコンベンション機能の促進」

県と沼津市がJR沼津駅北地区に整備を計画するコンベンション施設を、どう地域振興につなげるかを中心に、基調講演やパネル討論を繰り広げました。

情報伝達研究所の渡辺厚代表が基調講演し、「コンベンションセンター整備で、地域には重大な責任と大いなる可能性が生まれる。新たな挑戦をしてもらいたい」と呼び掛けました。

パネル討論では、県東部地域コンベンションビューロー会長の後藤全弘沼津商工会議所会頭がビューローの紹介や課題を示し、日本実務出版の森口巳都瑠社長は、人や会議を呼ぶため「快適な開催環境づくり」の必要性を訴えるなど、熱心な討論となりました。



■コンベンションの可能性を語る渡辺氏



2009.10.9 ② 伊豆地区分科会

テーマ「伊豆の観光はウェルネス」

講演やパネル討論を通じて、心身の健康の維持 増進を図る生活行動と伊豆の観光資源とのかかわり、活用、人材育成策などを探りました。

基調講演は、大型温泉地再生のカリスマとして知られる別府温泉の鶴田浩一郎鶴田ホテル社長による「温泉地再生とウェルネス産業」。また、パネル討論は船原館の鈴木基文社長ら4人のパネリストが「伊豆が世界の温泉療法のメッカとなるよう備えることで、大部分の来訪者が来てよかったと思えるようにしたい」「温泉をウェルネスで売り込むなら、地元の人が率先してウェルネスを実行してほしい」など、それぞれの視点から活性化案を提案しました。



■鶴田氏は別府温泉の取り組みを解説



日本人のみならず外国人観光客にも人気の高い富士山。富士山静岡空港の開港で海外からのアクセスが向上し、東アジアを中心に旅行客の増加も見込まれています。また、山梨県側と連携した「環富士山」で観光振興を図る取り組みも活発化しています。

外国人客の受け皿整備が加速

富士山静岡空港が開港し、外国人旅行客の増加が見込まれる中、富士山情報の提供や魅力的な旅行商品の開発、移動に欠かせない周遊バスの整備など、地域がやるべき課題は多くあります。

○案内看板の整備

富士山をインバウンドの主力に位置付ける静岡県は、昨年、環境省、山梨県と協力して富士山の案内看板の整備に着手しました。登山客がルート間違えたり、登り口と違う場所に下りてしまったりしないよう、登山道の名称を統一し、目的地までの距離や時間を表記。増加する外国人登山者のために英語、中国語、ハンゲルの多言語表記や、ピクトグラム(標準図記号)も多用しています。



■多言語表記がされた案内看板

○富士山の地図情報を統一

正しい情報を提供する観点から、案内看板の整備と並行して富士山の地図情報も統一しました。この地図を載せた静岡県観光マップは4言語で作成されています。広域で移動する旅行者のために、静岡県を中心に、中部国際空港から成田空港までの地図を掲載し、県内の主要な駅と観光地の市街図を入れています。



■統一された地図情報を使ったマップ

■ 環富士山でのスポーツコンベンション

富士山麓でスポーツによる交流人口の拡大を図る動きが広がっています。こうした地域同士が手を結び、「環富士山」でのスポーツ振興も模索されています。懇話会では、富士地区分科会でこのテーマを取り上げました。

2010.2.18 富士地区分科会

テーマ「富士山を生かしたスポーツコンベンションの可能性」

ラグビー元日本代表の大八木淳史氏は基調講演で、スポーツとの出会いから学んだ過程の重要性や、人を生かしたまちづくりについて語りました。

パネル討論では、富士山の周辺で富士山の恩恵を生かしたスポーツイベントや、まちづくりなどで活躍する4氏が、スポーツを通じた人づくりや富士山の魅力、地域活性化策などについて議論しました。



■富士市ホテル旅館業組合安藤肇副組合長



■ナチュラルアクションアウトドアーツ佐野文洋代表



■山梨県富士吉田市陸上競技協会渡辺正志会長



■富士市議会議員小池智明氏

交流人口拡大に寄与— 各地のスポーツイベント

○伊豆マラソン

伊豆マラソンは伊豆ナンバーの創設を記念して3年前に始まりました。昨年からは修善寺駅から三嶋大社まで3市1町にまたがり、21^{km}のコースで行われています。健康ブームやマラソン人気、観光地伊豆での開催から、年々参加者が増えています。



○日本スポーツマスターズ

35歳以上を対象にしたスポーツの総合祭典。富士山静岡大会が昨年9月に開催されました。水泳競技、サッカー、テニス、バレーボール、ボウリング、軟式野球など13競技が行われ、東部ではバドミントン男女（富士宮市）、自転車競技（伊豆市）を開催しました。

○Mt.FUJIエコサイクリング

富士山静岡空港開港を記念して開催されました。自転車と富士山、エコをテーマに富士山一周約120^{km}を走破します。日本だけでなく海外からも多くのファンが集まる大会です。ファミリーコースや障害者を対象にしたタンデムコースなど間口が広く、人気の高い大会です。



“自動車産業神話”がもろくも崩れた昨年。内需型の医療分野へ進出を考える中小企業も少なくありません。ファルマバレープロジェクトは、こうした異業種への進出や2次創業に向けた人材育成を強力にサポートしています。

■ 医療分野参入企業の支援本格化へ

医療・健康分野での先端的な技術開発を担う人材や、高度な医療人材の育成を図る取り組みが進んでいます。

○ 「富士山麓（ろく）医用機器開発エンジニア養成プログラム」〈通称 F-met（エフメット）〉

中小企業の技術を生かして医療機器開発の中心となる人材を育てる「富士山麓（ろく）医用機器開発エンジニア養成プログラム」が開講しました。

同プログラムは、地元企業の技術者を対象に、2年で医療機器開発に必要な薬事法などの専門知識を習得します。沼津高専と東海大開発工学部を中心に、共同研究に近い形で開発実習が行えるのが大きなメリット。事業期間の5年間で、企業内の中核となる技術者を32人以上育てるのが目標です。



■ 沼津高専での開校式

○ ものづくりセミナー「測るテクノロジー」

ファルマバレーセンターは、県内中小企業の経営者、管理者、技術者を対象として「測るテクノロジー」講座を実施。国内トップクラスの企業から測る技術のスペシャリストを迎え、ライフサイエンス分野における分析技術、機器について、座学、実演、実技を通じて講義を行いました。高度化・専門化する最先端機器の導入方法や仕様、メンテナンス技術を学ぶとともに、大学など研究開発現場での導入事例についても紹介しました。



■ 先端技術を学ぶ「測るテクノロジー」

○ 静岡がんセンターの「認定看護師教育課程」

静岡がんセンターは2008年11月に(社)日本看護協会より、病院立としては全国初の「認定看護師教育機関」の認定を受けました。認定看護師は、特定の看護分野で専門知識と熟練した看護技術をもち、看護現場で実践 指導・相談の3つの役割を果たす看護師のこと。静岡がんセンターのもつ高水準のがん看護力と実践力を備えた講師陣により、質の高い認定看護師の育成に寄与することができます。



■ 専門的 実践的な指導を行う認定看護師

初年度の昨年は「皮膚・排泄ケア」分野で6人の学生を受け入れました。今年は「緩和ケア」「がん化学療法看護」の2分野が加わり、40人ほどの認定看護師を育成します。

■ 地域に広がるファルマバレープロジェクト

先端的な医薬品 医療機器の開発だけでなく、さまざまな分野で同プロジェクトの成果が広がっています。また、健康や癒やしの地域づくりに向けた新たな取り組みが始まっています。

○ ファルマバレー考えるー 裾野でまちづくりシンポジウム

裾野市は、ファルマバレープロジェクトを行政施策に生かそうと「裾野市ファルマバレーシンポジウム」を昨年12月に開催しました。会場となった市民文化センターには、同プロジェクトに関心のある市民が大勢詰めかけました。



○ 健康に影響与える住民の絆ー ソーシャル・キャピタルの研究進む

社会疫学の世界の権威である米国・ハーバード大のカワチ イチロー教授は、地域における社会的なつながり(ソーシャル キャピタル)が住民の健康に与える影響を長年研究しています。昨年、裾野市、伊豆の国市、伊豆市が同大学、岡山大学と共同で、市民を対象に、地域における人間関係と健康の関連を調査するためのアンケートを実施しました。これにより、住民の健康度と地域とのつながりの強さの関連性や、健康的な人が多く住む地域にはどのような特徴があるのかを調べます。

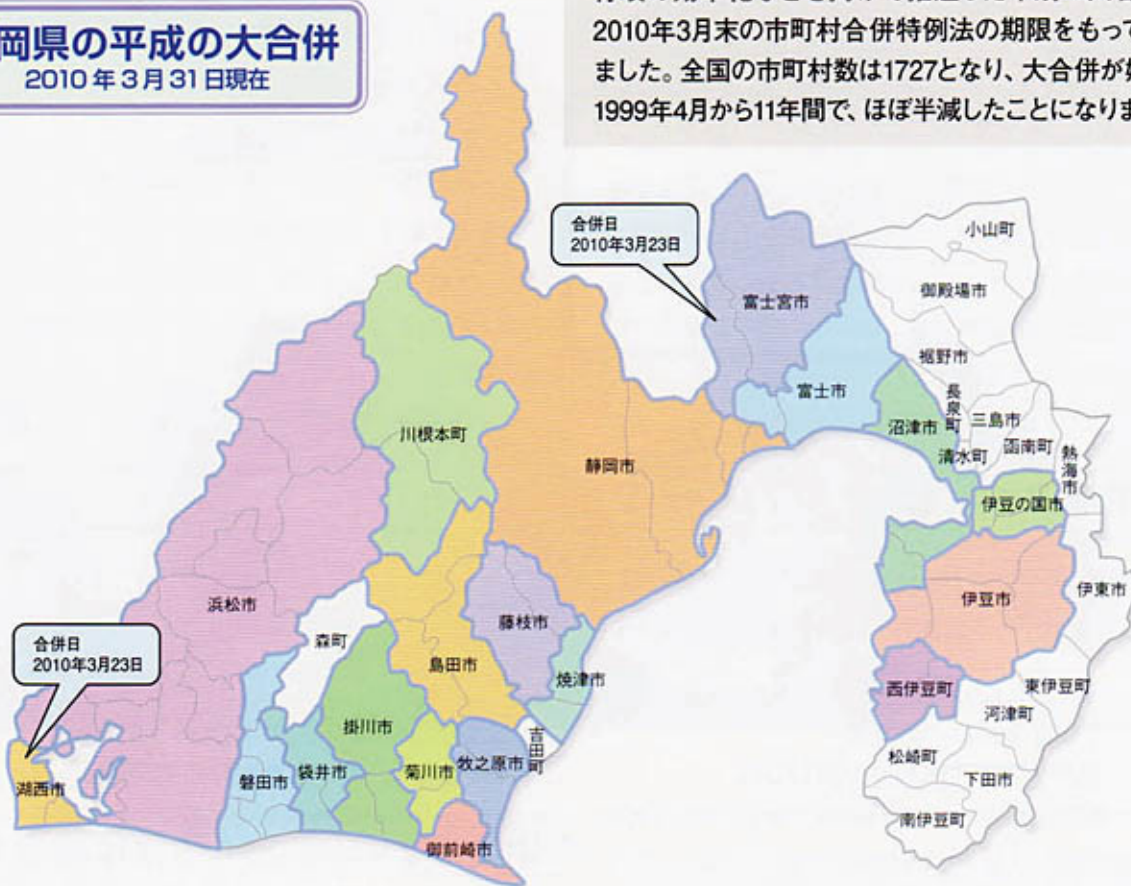


○ 人工呼吸補助器を全店導入し、講習ー 沼津信金

沼津信用金庫は、創立60周年を迎える記念に、地元企業の東海部品工業(沼津市)が開発した救急時に携帯できる人工呼吸補助器を全店舗に導入しました。

呼吸補助器は、ファルマバレープロジェクトで医療分野に参入した東海部品工業が昨年発売した「QQセーバー」。事故や災害などで呼吸ができなくなった人に、簡単に人工呼吸が行えます。

静岡県の平成の大合併
2010年3月31日現在



国と地方の財政難を背景に、国が住民サービスの高度化、行政の効率化などを掲げて推進した平成の大合併も、2010年3月末の市町村合併特例法の期限をもって終了しました。全国の市町村数は1727となり、大合併が始まった1999年4月から11年間で、ほぼ半減したことになります。

県内の合併状況-74市町村から35市町に

県内は、新居町を合併した新「湖西市」、芝川町を合併した新「富士宮市」が3月23日にそれぞれ誕生しました。これで74市町村(21市、49町、4村)は35市町(23市、12町)となり、市町村地区は大きく塗り替わりました。また、合併に至らなかったのは6市10町。そのうち、吉田と森の中、西部2町を除いた6

市8町が東部、伊豆地域に残っています。

現行法の期限切れに伴い、10年延長する改正法が4月1日に施行されました。知事による合併協議会設置勧告権などの推進策は廃止され、政府は自主的な合併の支援に軸足を移します。

南伊豆地区の合併状況-合併協議が破綻

賀茂地区1市3町(下田市、河津、南伊豆、松崎町)による合併をめぐり、松崎と南伊豆の両町議会が合併の最終判断となる廃置分合議案を昨年6月に否決。これを受け、4市町長は同日、県下田総合庁舎で会合を開いて今後の対応を協議しました。

合併協議会長の石井直樹下田市長は会合後の会見で「議決が出た以上、合併構想は断念する」と述べ、

2007年末から続いた1市3町合併協議の破綻を明言。

約10年間にわたり合併協議と破綻を繰り返して



きた賀茂地区の最後の話し合いのテーブルに着いていた下田市、河津、南伊豆、松崎町の1市3町合併協

は10月に解散しました。

■ 富士地区の合併状況-新富士宮市が誕生

3月23日に富士宮市と芝川町が合併し、人口13万5892人(3月1日現在)の新「富士宮市」が誕生しました。合併記念式典で小室直義市長は「自然豊かな芝川地区の魅力が加わり、富士宮市の魅力が一層充実した。自主自立のまちづくりに向け、将来の発展を誓いたい」とあいさつをしました。

今後、富士地区はどのような地域デザインを描くのでしょうか。富士市の鈴木尚市長は市議会2月定例会で、富士宮市との広域合併の検討方針について「経済圏や生活圏などで一致する市との合併は自然な流れ」と述べ、「市民の機運の高まりが大変重要」として市民が地域の将来を考えるために必要な資料を提供していく考えを示しました。

これに対し、小室市長も「かねてから『環富士山構

想』を提唱してきた」と、目指す広域都市像で共通認識を示した上で、芝川町との合併後に続く富士市長からの合併呼び掛けについて「こうした将来ビジョンに向けてのスタートになれば幸い」と歓迎の意を表しています。



■川勝知事から配置分合決定書の交付を受ける小室富士宮市長(左)=静岡新聞提供

■ 沼津、三島の合併状況-政令市に向け再起動



■「東部80万政令市の機運醸成を」と語る栗原沼津市長

県並みの権限や財源を持つ政令指定都市を目指し、足掛け10年協議した東部5市4町による「東部広域都市づくり研究会」が解散して2年。このほど、三島、沼津市、函南、清水町の首長は政令市の実現を目指し、東部伊豆の全市町の首長に合併協

議を呼び掛けることで合意しました。

この活動を大きなうねりとしていくためには、核となる三島市と沼津市が連携していくことが大前提です。

折しも三島商工会議所の多極分担型地域検討特別委員会が、三島地域のあるべき将来像について、合併で人口30万人以上の基礎自治体を実現できれば、次の段階で政令市を目指す議論に発展する—との提言書をまとめています。こうした経済界の声は大きな後押しとなります。

財政的に恵まれた市町が多く、また、核となるリーダーの不在が合併が進まなかった大きな原因でした。今回の栗原市長の呼び掛けが、東部が政令市として自立しようという機運につながるか注目されます。個々の市町の特徴を生かしたEU(欧州連合)のような連合体をつくり、理解が進めば合併するという手法も一つの選択です。サンフロント21懇話会も政令市実現に向けた独自のシミュレーションを研究していきます。

ラジオ EAST

www.digisbs.com/radio/program/east/

SBS ラジオ 毎週土曜日

11 00 ~ 12 55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部伊豆の地域情報を2時間にわたりお送りする「Radio*East」。清水町の大型ショッピングセンター、サントムーン柿田川内に開設されたサテライトスタジオ「LISPA」は東部・伊豆の情報

発信、文化創造拠点としてにぎわいを見せています。

番組恒例の公開放送は全部で6回。各地のイベントや魅力スポット、地元でしか食べられないご当地グルメ情報などをお送りしています。



■ ラジオ EAST ホームページ

ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「EASTたべちゃうぞ!」をはじめ「温泉へ行こう!」「花ごよみ」各コーナーはバックナンバーも充実。東部 伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.digisbs.com/radio/program/east/>



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

静岡新聞東部版・朝刊

毎月 第4日曜日掲載

東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、サンフロント21懇話会の活動の一端を毎月1回、新聞紙上で紹介する「風は東から」。

連載12年目を迎え、昨年は東部に建設が予

定されている大型コンベンション計画の概要や、伊豆観光の活性化が期待される「観光圏」について、また「環富士山」でスポーツコンベンションを活発化する取り組みなどを取材しました。



■ サンフロント21 懇話会 ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨 沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/>

2010 年度活動方針

地区別テーマ

■ 広域行政の推進を支援

「中央集権から地方分権に！」と新政権が唱える新たな国家像はどこまで現実味を帯びてくるだろうか。「基礎的自治体」がその第一歩となりうるのか大いに議論を重ねる時期に来た。

市や町にはいままで以上の健全性と力量が要求されるが、それに加え地域間が結束し、広域での行政を行うことこそが基礎的自治体の導入に対応する早道となるだろう。

地域同士が横断的に抱えている問題点を補完しあい生活者に安心、安全、そして夢を与えることこそが広域行政のあるべき姿ではないか。

なかでも東部地域の主要都市である沼津市と三

島市が核となり、周辺市町とも結束し、スピード感をもって県中部、西部に続く「政令市」の誕生を実現させることが今、強く求められている。

懇話会としても政令市実現に向けた独自のシミュレーションを研究していく。

また、伊豆地区の抱える問題点をさらに研究する。過疎化、少子化、財政難などマイナス要因が横たわっているなか、伊豆の歴史的な財産を守っていかなければならない。伊豆半島を大きな塊としてブランド化していくことが伊豆観光の生き残る道ではないか。伊豆復権の道筋も探っていきたい。



■ ファルマバレープロジェクトの推進支援

県東部地域を中心に、恵まれた交通インフラや自然環境、健康関連産業の集積を背景に、世界レベルの高度医療 技術開発を目指して先端的な研究開発を促進し、医療からウエルネス産業にいた

る先端健康産業の振興と集積を図るプロジェクトだが、2007年に策定した第2次戦略計画の最終年を今年迎える。

「健康基盤づくり」「健康ものづくり」「健康まち

づくり」「ひとづくり」「世界に向けて」の5つの戦略を掲げたこのプロジェクトを検証するきっかけとしたい。

現在、米ハーバード大学のカワチ イチロー教授、岡山大学の土居弘幸教授らが中心となって進めているソーシャル キャピタルと地域住民の健康度と

の関連分析などの研究や、伊豆における「かかりつけ湯」などウェルネスツーリズムの発展にもつながっていききたい。

懇話会としてもいままでの研究成果や今後の課題を丁寧に取り上げていき、このプロジェクトを支援していく。

■ 東部地区におけるコンベンション機能の促進

県東部の広域的な交流機能を高めるための中核的施設として大型のコンベンション会場と、新たな展示イベントホールなどを持つ多機能型コンベンション施設「東部コンベンションセンター」がJR沼津駅北口周辺に計画されている。

補完施設として市民交流施設や行政サービス施設、駐車場などを整備し、民間活力を導入したホテルやオフィスなどを誘致する計画が進められている。

「装置の充実と機能の多様化」が最も重要であり、周辺市町に及ぼす効果は計り知れない。富士山静岡空港が開港し、国内外から来られるお客様をいかにもてなすかも重要な要素となる。

今後はアフターコンベンションも視野に入れた連携も必要となる。この機能をどう売り込んでいくか。また、沼津市での鉄道高架事業とも大いに関係してくるだけに民意を尊重した合意形成が求められる。



■ 富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進

広域な視点で観光を考える時代が来た。それが富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光戦略である。それに勢いをつける大きな動きこそが「富士山静岡空港」の開港である。海外からの外国人旅行者（インバウンド）と国内遠隔地からの旅行者は静岡空港に降り立つ。いかに東に足を向けさせ富士、箱根、伊豆の観光にまで持っていけるかが最大の課題である。

2次アクセスの整備、特に期待される伊豆縦貫道（構成する東駿河湾環状道の部分共用開始）や着地型商品の開発などが急務となっている。

国内外の有力観光地、テーマパークなどとの地域間、施設間の競争は激化する一方で、これから

確固としたオリジナルの観光戦略を打ち出していかなければならない。

サンフロント21懇話会は、前年度に引き続き、新しい伊豆のにぎわいを取り戻すための方策を考えていく。

また、富士 富士宮地区と山梨県をエリアとした「環富士」構想において新たな観光誘客作戦が求められるなか、既に実績のある「富士山一周ドリームウオーク」「富士登山駅伝競走大会」そして、「Mt.FUJ Iエコサイクリング」などの大型スポーツイベントの支援と新たなスポーツ コンベンションの可能性を追求し、「スポーツ観光」の確立に向けた提案をしていく。

会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
相原 郁子	(有)新井旅館	代表取締役	井上 謙吾	朝すおか産業創造機構 ファルマビルセンター	所長
青木喜代司	青木興業(株)	代表取締役	井原 伸二	スルガ銀行(株)	営業本部シブツノカクノ下任
青木 昇	賀茂地域支援局	局長	岩崎 利洋	東タイ(株)沼津工場	工場長
青山 茂	(株)シード	取締役副社長	植草慎一郎	(株)康報社 植草新聞店	代表取締役社長
赤羽 功次	(株)そごう 西武 西武沼津店	店長	上野 英房	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長	植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役
秋山 勇雄	(株)SBS プロモーション	代表取締役社長	臼井 良太	臼幸産業(株)	代表取締役
秋山 佳彦	(株)秋山機器	代表取締役社長	内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
芦川 勝年	沼津市商店街連盟	会長	内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役
芦川 均	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長	内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
芦川 弘之	静岡県田子の浦港管理事務所	所長	内田 正章	富士通(株)沼津工場	工場長
畔上 吉陽	ネットトヨタスルガ(株)	代表取締役社長	宇野 統彦	(株)桃中軒	社長
綾部 恵市	(株)綾市商店	代表取締役社長	海老江幸栄	(株)虎屋	工場長
荒川 直也	(株)NTTドコモ 東海支社 静岡支店	静岡支店長	遠藤 里美	日本ガス興業(株)	代表取締役会長
有賀 俊介	静岡県富士財務事務所	所長	遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
安藤 肇	(株)フジコムインターナショナル	代表取締役	遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭
安保 利和	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長	遠藤日出夫	長泉町	町長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役	大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究部部长
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長	大石 剛	静岡新聞社	取締役編集局長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	大石 滋	静岡新聞社	代表取締役専務
池田 誠	池田病院	院長	大塩 孝雄	黄瀬川自動車学校	取締役会長
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役	大路 博	三島市観光協会	会長
石井 直樹	下田市	市長	太田 長八	東伊豆町	町長
石井 文弥	一般社団法人 伊東観光協会	会長	太田 貴久	(株)ブレーン	代表取締役
石井 誠	(株)石井組	取締役副社長	大嶽 正泰	宗教法法人 三明寺	代表役員
石井 良雄	東海自動車(株)	取締役社長	大坪 檀	静岡産業大学	学長
石上 政弥	静岡県下田財務事務所	所長	大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
石川 眞	(株)丸石製作所	代表取締役	大橋 俊二	裾野市	市長
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長	大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長	小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
石川 征雄	(株)ミツイシ	代表取締役	尾形 充生	(株)静岡中央銀行	相談役
石田 岳彦	(株)CFSコーポレーション	代表取締役社長	岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長
石山 隆治	静岡新聞社	常務取締役	岡本 武	東部地域支援局	局長
磯田 悟	独立行政法人都市再生機構 静岡東部特定業務局事務所	所長	小木曾 誠	(株)富士シヤフト	代表取締役社長
伊丹 秀之	(有)松韻	取締役社長	荻田 勝雄	富士急シティバス(株)	取締役社長
伊東 哲夫	伊東法律事務所	所長	刑部 治	(有)啓伸社 刑部新聞店	代表取締役
稲田 精治	三島信用金庫	理事長	小澤 誠	静岡新聞社 静岡放送	企画事業局長
稲葉早智子	アロマポット	代表取締役	小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
稲葉 常宏	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長	小野寺恭敬	静岡県総合健康センター	所長

氏名	会社名	役職
賀来 裕之	積水ハウス(株)沼津支店	支店長
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長
勝又 高雄	日本電気(株)沼津支店	支店長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長
勝又 英男	(株)勝又新聞店	代表取締役
勝又 寛治	(株)沼広	代表取締役
勝間田芳壽	学東駿学園 御殿場西高等学校	理事長
桂 英治	静岡放送	常務取締役
加藤 和彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 修一	(株)加藤工務店	代表取締役
加藤 博彦	(株)メディアクリエイト	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長
亀井 竹雄	(株)シック	代表取締役
河原崎信幸	シンコーラミ工業(株)	代表取締役
川原崎康雄	(株)マキヤ	代表取締役
桔梗 芳実	日本興亜損害保険(株) 静岡支店沼津支社	支社長
菊地 豊	伊豆市	市長
喜多 晋	静岡県沼津財務事務所	所長
北村 敏廣	静岡新聞社	常務取締役
木戸 英壽	沼津商工会議所	専務理事
木宮 健二	富士常葉大学	学長
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
久保田正海	クボタコンサルタント事務所	代表
倉田 俊彦	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	センター長
栗田 恒夫	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
栗原 裕康	沼津市	市長
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長
小池 政臣	三島市	市長
小滝 勝昭	富士信用金庫	理事長
後藤 全弘	(株)ゴトー	相談役
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役社長
後藤 義男	沼津魚仲買商協同組合	理事長
小中 章義	近物レックス(株)	代表取締役社長
小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
小林 俊夫	(株)東報	代表取締役
小室 直義	富士宮市	市長

氏名	会社名	役職
近藤 安敏	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
齋 秀	(株)東海建設コンサルタント	代表取締役
齋藤 栄	熱海市	市長
齋藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齋藤 哲一	三幸興業(株)	代表取締役社長
斎藤 文彦	松崎町	町長
齋藤 稔	(株)斎藤組	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
坂本 光司	法政大学大学院 政策創造研究課	教授
桜井 末廣	(株)ブケ東海	代表取締役社長
佐々木 純	株損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長
佐々木道武	大成サービス(株)浜松営業所	浜松営業所長
佐藤 貢一	米久ペンディング	専務取締役
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 孝敏	静岡県賀茂農林事務所	所長
佐藤 隆泰	(株)静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員
佐藤 孝行	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
佐藤 秀樹	(株)サトウ商会	代表取締役
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 管理部長
佐野 武男	丸富製紙(株)	代表取締役社長
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
澤入 義幸	スルガ銀行(株)	執行役員
澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務
三本木芳彦	大東紡エステート(株)	取締役社長
篠原松太郎	オブリック(株)	代表取締役社長
篠原 光秋	(株)SBS 情報システム	代表取締役社長
斯波 幹和	(株)サン	代表取締役社長
島田 雷太	(有)アイシーアイ	代表取締役
庄司 清和	(株)時之栖	代表取締役社長
榛葉 英二	静岡放送	報道局長
杉田 至弘	静岡新聞社 静岡放送	常務取締役
杉山 定久	南富士産業(株)	代表取締役社長
杉山正一郎	御殿場農業協同組合	代表理事組合長
杉山 次郎	静岡県中小企業団体中央会	東部事務所長
杉山 洋	東京海上日動火災保険(株) 静岡自動車営業部沼津営業課	課長
須沢 隆弘	(株)東広	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 和宏	御殿場高原ビール(株)	代表取締役

会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長	中山 勝	財企業経営研究所	常務理事
鈴木 経康	沼津情報専門学校	校長	成川 昭雄	(株)エム エス エス	取締役
鈴木 尚	富士市	市長	西岡 直樹	大和ハウス工業(株)沼津支店	支店長
鈴木 文三	サンコー防災(株)	代表取締役	西川 泰正	静岡県富士土木事務所	所長
鈴木 道也	南駿農業協同組合	代表理事組合長	西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長
鈴木 幸彦	清水物産(株)	代表取締役社長	西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長
須田 徳男	三島商工会議所	会頭	野沢 和俊	静岡県富士農林事務所	所長
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	野間由香利	アフラック沼津支社	支社長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	野村 浩司	(財)静岡総合研究機構	主席研究員
諏訪部敏之	丸善工業(株)	会長	野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長	羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役会長	林田 充	(株)JTB 中部 沼津支店	支店長
相馬 宏行	河津町	町長	原 和也	静岡放送	ラジオ局長
高田 菊平	ニューデルタ工業(株)	代表取締役社長	原 浩之	学校法人 原学園 専門学校白寿医療学院	理事長
高橋 宏	小山町	町長	原口 茂	富士商事(株)	代表取締役
田代 章	静岡県東部健康福祉センター	所長	原田 誠治	静岡新聞社	主筆
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役	一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
伊達 耿介	(株)ビック東海	本部長付担当部長	兵藤 真一	東方之光 (EMO-エー・インターナショナル)	広報担当
谷 和実	(財)静岡総合研究機構	副理事長	日吉 公男	静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター	センター長
谷川 治	静岡新聞社 静岡放送	取締役東部総局長	日吉 敬郎	静岡県熱海土木事務所	所長
千葉 慎二	(株)AS-SZKi	代表取締役社長	平野 幸雄	富士通(株)静岡東部支店	支店長
佃 弘巳	伊東市	市長	福田 昌明	Knt!近畿日本ツーリスト(株)沼津支店	支店長
辻 明久	(有)メイク エンタープライズ	代表取締役	藤井 明	米久(株)	代表取締役社長
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役	藤井 武彦	西伊豆町	町長
土屋 正	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長	藤浪 譲治	SBS メディアサービス(株)	代表取締役社長
土屋 俊幸	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長	堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	前野 克己	静岡ガス(株)東部支社	常務執行役員東部支社長
土屋 幹夫	(株)幹洋堂土屋新聞店	代表取締役	牧村 久夫	総合警備保障(株) 沼津支社	支社長
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役	松井 純	静岡新聞社 静岡放送	取締役社長
土屋龍太郎	土屋建設(株)	社長	松田 達也	ネットトヨタ静岡(株)	代表取締役社長
堤 親朗	(株)イズラン	代表取締役	三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長
寺嶋 晋	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長	三澤 賢治	シンフジハイヤー(株)	代表取締役
角田 広道	静岡県熱海財務事務所	所長	道下 和幸	ホテル・オペレーション沼津 沼津東急ホテル	総支配人
栃木 宏光	東京電力(株)沼津支店	支店長	峰田 武	(財)佐野美術館	理事長
鳥井 明典	鳥井明典法律事務所	弁護士	三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長	村松 重治	静岡新聞社 静岡放送	営業局長
中島 萌	(株)特電	代表取締役	村松 夏夫	静岡新聞社	取締役販売局長
中嶋 三恵	(株)山六ひもの店	代表取締役	室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役
中野 篤	静岡県東部農林事務所	所長	室伏 強	三嶋観光バス	代表取締役

会員名簿

<会員の交代>

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
青木 昇	賀茂地域支援局	局長			
赤羽 功次	(株)そごう 西武 西武沼津店	店長			
芦川 均	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長			
石上 政弥	静岡県下田財務事務所	所長			
磯田 悟	独立行政法人都市再生機構 静岡県特定再生開発事務所	所長			
稲葉 常宏	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長			
岩崎 利洋	東タイ(株)沼津工場	工場長			
大路 博	三島市観光協会	会長			
岡本 武	東部地域支援局	局長			
小澤 誠	静岡新聞社 静岡放送	企画事業局長			
桂 英治	静岡放送	常務取締役			
加藤 和彦	(株)コーゲツ	代表取締役			
喜多 晋	静岡県沼津財務事務所	所長			
倉田 俊彦	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	センター長			
斉藤 文彦	松崎町	町長			
三本木芳彦	大東紡エステート(株)	取締役社長			
榛葉 英二	静岡放送	報道局長			
杉山 洋	東京海上日動火災保険(株) 静岡自動車営業部沼津営業課	課長			
相馬 宏行	河津町	町長			
伊達 耿介	(株)東海	本部長付担当部長			
寺嶋 晋	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長			
栃木 宏光	東京電力(株)沼津支店	支店長			
野間由香利	アフラック沼津支社	支社長			
野村 浩司	(財)静岡総合研究機構	主席研究員			
原 和也	静岡放送	ラジオ局長			
原口 茂	富士商事(株)	代表取締役			
日吉 敬郎	静岡県熱海土木事務所	所長			
牧村 久夫	総合警備保障(株) 沼津支社	支社長			
峰田 武	(財)佐野美術館	理事長			
村松 重治	静岡新聞社 静岡放送	営業局長			
元村 秀樹	キリンビール株式会社	営業部長			
森 延彦	函南町	町長			
矢野 公司	野村証券(株)沼津支店	支店長			
山田 司	静岡新聞社 静岡放送	東部総局次長兼業務部長			
山村 留久	静岡県下田土木事務所	所長			
吉野日出夫	(株)関電工静岡支店	支店長			

幹事・委員

サンフロント21懇話会幹事(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
石田 岳彦	株CFSコーポレーション	代表取締役社長	横浜市
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭	富士市
尾形 充生	(株)静岡中央銀行	相談役	沼津市
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長	沼津市
佐藤 隆泰	株静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員	沼津市
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	沼津市
藤井 明	米久(株)	代表取締役社長	沼津市
三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長	駿東郡
峰田 武	(財)佐野美術館	理事長	三島市
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市

サンフロント21懇話会運営委員(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	駿東郡
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役	伊豆の国市
宇野 統彦	(株)桃中軒	社長	沼津市
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	三島市
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	裾野市
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	駿東郡
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

<地域支援局>

青木 昇	賀茂地域支援局	局長
岡本 武	東部地域支援局	局長

<アドバイザー>

大坪 植	静岡産業大学	学長
坂本 光司	法政大学大学院	教授

<常任顧問>

伏見 一成	静岡新聞社 静岡放送	浜松総局長
篠原 光秋	(株)エスピーエス情報システム	代表取締役社長

<TESS 構成員>

西島 昭男	(株)シード	委員長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
羽野 久雄	羽野水産(株)	顧問
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	委員
宇野 統彦	(株)桃中軒	委員
小野 徹	小野建設(株)	委員
諏訪部照久	(株)スワベ商会	委員
青山 茂	(株)シード	研究員
大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究員
中山 勝	(財)企業経営研究所	研究員
野村 浩司	(財)静岡総合研究機構	研究員



2009年度を振り返って

サンフロント21懇話会 運営委員長
あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

昨年は7月に川勝平太県知事が誕生し、8月の衆院選では民主党を中心とした政権交代が起き、鳩山政権が発足するなど、変化に富んだ1年でした。

新政権は国民目線の重視を掲げましたが、変化を期待した有権者の思いにどこまで応えているか。国民の一番近くにあるはずの政治が遠くにあり、十八番(おはこ)とする「友愛の精神」がかすんでしまったと感じるのは私一人でしょうか。

経済も正念場が続きました。一昨年のリーマン ショックを契機とした世界同時不況で幕を開け、デフレ、円高も加わり、回復への足取りは緩慢なまま1年が終わりました。「エコ」をキーワードとした自動車や家電など一部業界を除けば、工場閉鎖や人員削減など事業の縮小が就職氷河期をもたらしました。8月11日早朝には、駿河湾で最大震度6弱を観測する地震が発生し、まさに激動の日々でした。

こうした中、6月に富士山静岡空港が開港したことは一筋の光明を見る思いでした。空港がもたらす有形無形の恩恵は県東部にも十分あるからです。

2009年度の活動方針に「富士山静岡空港の利活用と差別化戦略」を共通の総合テーマに掲げました。経済効果はもちろん、人と人の交流が新たな文化を生み、静岡ブランドのさらなる向上が期待できるからです。そのためには国内外から静岡の地に降り立つビジネスや観光のお客様たちの目と足を、いかにして県東部に向けさせるかです。

2010年度は設立15年の節目です。総会、地区分科会など一連の活動に会員皆様方の強力なご支援、ご理解をこれまで以上に賜りたく存じます。



サンフロント21
懇話会

<http://www.sunfront21.org/>

■ 発行/2010年 5月31日

〒410-8560 沼津市魚町1番地サンフロント5F 静岡新聞社・静岡放送東部総局内 サンフロント21懇話会事務局 TEL.055-962-6520